

上場塗料製造会社の2021年3月期第2四半期決算が出そろいました 11月16日

11月13日で、上場している塗料製造会社の2021年3月期の第2四半期(7-9月)決算がでそろいました。第1四半期の決算に比べるといくらかは回復が見られますが、一部の会社を除き減収減益であり、2021年3月期の売上見通しも前年度を下回る見通しであることは変わりありません。とりあえず、一覧表をご覧ください。この中で、日本ペイントHDは2020年12月期第3四半期決算、川上塗料は2020年11月期第3四半期決算であり、他の会社とは決算期が異なっています。日本ペイントHDについては、他の会社との比較をするため、2020年4-9月期だけを別に計算して小さな表を下部につけておりますのであわせてご覧ください。

2021年3月期 第2四半期 決算単信内容 抜粋

2020.11.13 17:00

会社名	売上高		営業利益		経常利益***		親会社株主に帰属する純利益		セグメント情報など	2021年3月期売上高	
	百万円	前年比%	百万円	前年比%	百万円	前年比%	百万円	前年比%		百万円	前年比%
日本ペイントHD(短信) *	562,294	13.6	63,314	-4.6	63,572	-3.4	48,197	1.2	(国内)自動車-29.1%、汎用-12.3%	760000	5.6
日本ペイントHD(実績) *	467,200	-5.6	48,900	-23.2	50,000	-20.7	23,100	-27.9	工業-14.4%、その他塗料-2.9	770000	6.9
関西ペイント	162,494	-22.1	9,233	-47.1	9,948	-47.1	4,281	-56.3	(国内)自動車-24.2%工業-17.1%汎用-1.9%	330000	-18.9
エスケー化研	39,808	-21.3	4,047	-33.0	3,891	-33.8	2,692	-31.6	建築仕上げ材-22.9%、耐火断熱材-5.2%	85000	-11.5
中国塗料	39,857	-10.3	3,283	117.5	3,451.0	96.0	2,131	126.0	(国内)船舶-9.1%工業-16.1%その他+3.1%	80000	-8.8
大日本塗料	30,049	-18.4	815	-70.4	1,038	-63.9	413	-76.7	塗料(国内-14.9%海外-35.5%)照明-32.3%	62500	-14.0
藤倉化成	21,294	-28.6	-366	-	-141	-	-308	-	コーティング-34.6%、塗料-26.7%、合樹-10.6%	44500	-16.2
日本特殊塗料	20,091	-30.2	-821	-	-578	-	-563	-	自動車関連製品-33.1%、塗料-23.1%	48300	-15.5
ロックペイント	11,568	-8.9	761	-10.0	1,038	5.6	753	10.4	前年比 減：車両、建築、家庭用 増：工業	23000	-6.2
神東塗料	9,766	-16.1	-38	-	-38	6.0	-135	-	塗料-18.3%、化成品-9.8%	20000	-11.3
菊水化学工業	9,285	-19.4	68	-74.2	103	-64.3	48	-69.9	第2四半期は第1に比べ回復傾向	19800	-8.6
アサヒペン	8,889	20.8	717	77.2	766	65.4	405	27.2	塗料+15.9%、DIY用品+28.8%	15000	9.0
アトミクス	4804	-1.2	200	27.6	212	23.6	139	35.4	塗料+2.0%、施工-53.1%	10900	3.6
イサム塗料	3518	-8.2	262	-27.9	332	-23.6	258	-16.1	塗料事業-8.3%	6900	-7.8
川上塗料**	3596	-14.7	-54	-	-12	-	-15	-	-	4839	-15.7

*日本ペイントは2020年12月期の第3四半期決算内容 (短信：短信ベース、実績：実績ベース)

川上塗料は2020年11月期の第3四半期決算の内容 *日本ペイントは税引き前利益

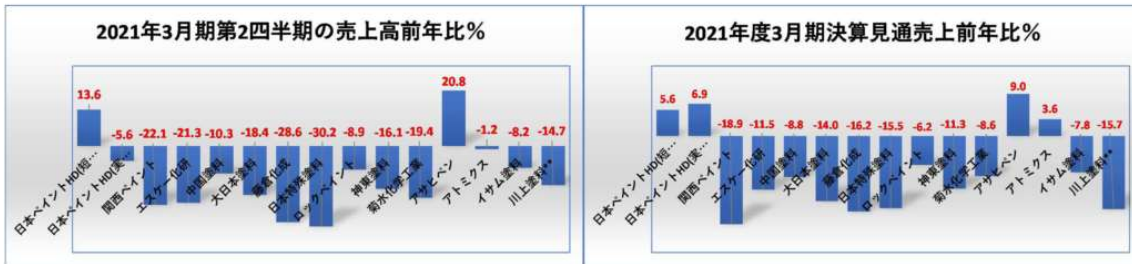
日本ペイントHD	売上高		営業利益		経常利益*		親会社株主に帰属する純利益	
	億円	前年比%	億円	前年比%	億円	前年比%	億円	前年比%
2Q+3Q (短信)	3994	14.8%	480	3.9%	496	9.5%	241	9.5%
2Q+3Q (実質)	3408	-2.0%	384	-15.8%	408	-8.9%	188	-17.5%

*税引前利益

日本ペイントHDの実質ベースの意味合い
 実質ベースとは、継続的な事業の収益力の前年からの変化を示すため、M&Aによる新規連結影響や一時的な要因により発生した損益を調整して算出

日本ペイントHDは、短信ベースと実質ベースの2種類の数字を公表しています。このうち実質ベースとは、右下に注をつけておきましたが、継続的な事業の収益力を示すために、M&Aによる新規連結や一時的な要因による影響を調整したものであることと実質的な収支の変化を示しているものです。こうした一時的な要因の影響を具体的に数字で決算説明書示すことは珍しくありませんが、わざわざ2種類の数字を公表しているケースは少ないと思います。できるだけ、実績をわかりやすく公表したいという意志の顕れであると理解できますのでその姿勢を評価したいと思います。

話が横道にそれましたが、各社のここまでの売上前年比と今期末の売上見通しを図にしてみました。(日本ペイントHDと川上塗料は第3Qまでの数値です。)



左上図で売上高の前年比を示します。売上高が前年同期を上回ったのは、日本ペイント HD の短信ベースとアサヒペンの 2 社のみでした。ただし日本ペイント HD は実質ベースでは前年を下回っていますので、実質的には巣ごもり需要の恩恵を受けたアサヒペンのみが前年を上回ったという結果でした。

営業利益が前年同期比を上回ったのは、中国塗料、アサヒペン、アトミクスの 3 社のみでした。このうち中国塗料は、2017 年以降昨年まで苦しい時期が続き、2019 年度も低調であったことにより今年度の営業利益が前年比プラスになったものと思われます。

右上図は期末における売上見通しです。前年比プラスを見込んでいるのは、日本ペイント HD の短信ベースと実質ベース（この場合は為替一定条件）とアサヒペン、アトミクスのみでした。他の会社は一桁%から 10% 台のマイナスを見込んでいますが、おしなべて見ると、汎用塗料主体の会社が一桁%のマイナス、工業用主体の会社が 10% 台のマイナスを見込んでいるように思われます。

2020年度第2四半期 上場塗料会社の売上高/営業利益 前年比の位置

営業利益前年比	売上高前年比		前年同期比売上高					
			増加 (%)			減少 (%)		
	20	10	0	-10	-20	-30	-40	
営業利益 前年比 (%)	30 ≧	アサヒペン			中国塗料			
	20			アトミクス				
	10							
	0	日本ペイント(短)*						
	-10	日本ペイント(短)†		ロックベイント				
	-20			日本ペイント(実)†				
	-30			イサム塗料				
	-40					エスケー化研		
	-50					関西ペイント		
	-60							
70 ≧					大日本塗料 菊水化学工業 神東塗料 川上塗料	藤倉化成	日本特殊塗料	
損失								

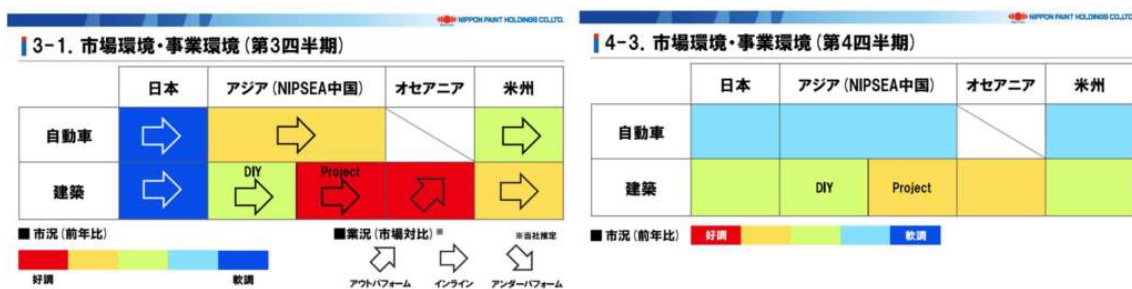
*2Q+3Q †1~3Q †1~3Q、2Q+3Qいずれも

2021 年 3 月期第 2 四半期終了時点の各社の決算について、横に売上高と縦に営業利益のマス目をつくりその中に会社名を入れてみました。先ほども触れましたように工業用主体の会社の苦戦が目立ちますが、汎用主体の会社の中では、建築塗料首位のエスケー化研がやや苦戦しているように感じます。

売上高の前年比と営業利益の前年比は、必ずしも連動しているわけではありませんが、一般論で言えば、営業利益率の低い会社ほど、また経費の中で固定費割合の高い会社ほど営業利益の落ち込みが大きくなっているものと思われます。

各社のセグメント別の状況はできるかぎり決算短信から拾って記入していますので、詳しくはそちらをご覧ください。好調の会社では、アサヒペンが巣ごもり需要で、アトミクスは同じく巣ごもり需要と路面用塗料をはじめとする公共工事関係が予想より落ち込まなかったことが業績に貢献しているものと推測されます。

最後に日本ペイントが公表している第3四半期（7-9月）の市場状況と第4四半期（10-12月）の見通しをご紹介します。建築用と自動車用について世界の各地区ごとの実績（7-9月）と見通し（10-12月）を示しています。



これによれば、10-12月期の見通しは、自動車は世界中でやや軟調（需要が低め）建築はアジア（主として中国）の工事ものと豪州でやや好調でそれ以外は前年並みとなっています。

以上みてきましたように、第2四半期終了時点でも上場会社の多くは依然厳しい状況にあるようです。再び感染第3波が始まってしまった現在、さらに厳しい状況も想定され、試練の時は続くと思われます。